

令和3年度 第39回入学式 式辞

花の香りや小鳥のさえずり、風の暖かさに春を感じる今日の佳き日、兵庫県立西宮甲山高等学校第39回入学式を挙げていただけますことは、本校にとって、この上もない喜びとするところです。

新型コロナウイルス感染症の広がりが心配される中であって、例年とは異なる形で入学式を挙げてすることにいたしました。そのような中、PTA 会長高島様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り、令和3年度兵庫県立西宮甲山高等学校第39回入学式を挙げていただけますことに、本校の教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

先ほど入学を許可しました131名の皆さん、入学おめでとうございます。今日から皆さんは、西宮甲山高校39回生として本校で学ぶことになりました。本校は「森の学校だからできることがある」「小さな学校にしかできないことがある」のスローガンの下、自然豊かなこの環境を生かして教育活動を展開しています。

また、本校は校訓である基「己を究め ふれあいのなかに 明日を拓く」を礎にして教育活動を行っています。入学するにあたりその基に沿って皆さんに私から伝えたいことをお話しします。

一つ目は「己を究め」です。己を究めるために大切なことは、自分を振り返ることです。自分の考えは正しいのか、自分の行動は間違っていないのか、常に自分を見つめ直すことが大切です。完璧な人間など、どこにもいません。だからこそ、振り返ることは大切なのです。そのとき、他の人の考え方や、言動も参考にしてみるとよいでしょう。自分だけが正しいなんてことは滅多にありません。自分も正しいけど、他の人も正しいということが多いです。だから、自分と周囲とをどうすりあわせるかが大切です。また、自分が間違っていたと気づくこともあるかもしれません。間違いに気づくということは素晴らしいことで、間違っていた自分を責める必要はありません。間違いに気づいたら、次にどう行動するかが大切です。ただ、自分の間違いや弱みばかりを見つけてしまい自分を責めてばかりいる人がいますが、自分を究めるためには、自分の良いところや強みを見つけ、それを伸ばしていくことの方が大切です。ぜひ、自分の良いところや強みを見つけてください。良いところや強みは、誰にでも絶対にあります。

自分を振り返ることを教育学や心理学の用語ではリフレクションと言います。日本語では内省と訳されたりしますが、良いところや強みにも目を向けるところが、反省とは違うところです。高校生活を送る上で、このリフレクションを心がけて皆さんが成長することを期待しています。

二つ目は「ふれあいのなかに」です。皆さんも分っていると思いますが、人は一人では生きていけません。学校は多くの人が集まっているところです。当然いろんな人がいます。気の合う人、合わない人いろいろでしょう。時には何気ない一言や行動で傷ついたり、逆に傷つけてしまったりすることがあるかもしれません。ふれあいの中では避けて通れないことだと思います。まず、人を傷つけないようにするにはどうしたらいいか。他の人のことを尊重し、他の人の意見や考え方を理解することだと思います。時には、他の人の意見や考え方で、自分の意見や考え方を修正することもあるでしょう。もちろん、周囲に迎合するというのではなく、必要なときは自分の意見や考え方を伝えることも大切です。

次に、傷ついてしまった場合はどうでしょうか。対処方法はいくつかあります。一つは、「耐えがたいものとしてとらえないようにする。」ということです。普通多くの方は、「耐えられない。」と思っても結果的に耐えられていることがほとんどです。仕方なく、かもしれませんし、時間がかかるかもしれませんが。結果的に耐えられることが多いなら、はじめから「耐えられる。」と自分に言い聞かせることで、ストレスをやり過ぎやすくする方が良いです。他にもいくつか対処法がありますが、このような対処法はレジリエンスという言葉につながります。レジリエンスは「復元力」や「精神的回復力」などと訳される言葉です。高校生活を送る中で、積極的に人とふれあってほしい。その中で万一傷つくことがあれば、その時は復元力を学び、身につけてほしい。苦しいときは誰かに相談しながらでも、もちろんかまいません。誰だって傷つくことは嫌だけれど、高校時代に一切傷つくことなく大人になると、大人になってから傷ついたときにダメージが大きくなります。ふれあいを大切にすることは、他者を尊重することであり、傷つくことを恐れないことであり、そして自分を大切にすることでもあると思います。少し難しいですが、高校生活を送る中で学んでいってもらえたらと思います。

三つめは「明日を拓く」です。

新型コロナウイルス感染症によって、私たちの暮らしは大きく変化しています。このコロナ禍が終わった後も、おそらくコロナ禍前とは生活様式が大きく変わるのではないかと思います。そんな状況だからこそこれまでの価値観では計れないところにチャンスがあるのではないかと私は思います。だから、やる気のある人には誰にでも成功するチャンスがあります。新入生の皆さんには、この西宮甲山高校で学んで、先行き不透明なこの世の中の明日を拓いてほしいと切に願っています。そのために、高校三年間、やる気を持ち続け、根気よく努力し続けてください。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございませう。さて、高校生活三年間には、いろいろなことがあります。悩んで家で泣いている、先生に叱られて家でむしゃくしゃしている、保護者の皆さんに愚痴を言う、などということがもしかしたらあるかもしれません。悩んだり、困ったりするか

人は成長するのです。特に高校時代はなおさらです。どうかそんな時には、生徒の話聞いてあげてください。ただ気をつけていただきたいのは、多くの場合、生徒は誰かに聞いてもらえば、すっきりしてしまうのです。ところが、そこで保護者の方がそれは大変だと大げさに反応してしまうと、生徒も聞いてもらえればすっきりしていたようなことも大きなことに感じてしまって、余計悩んでしまうことがあるのです。共感して生徒の話聞いてあげるだけで多くの場合は大丈夫です。生徒が自分自身で困難を乗り越える力を身につけることが大切だと思います。生徒の皆さんが高校三年生になるときには、選挙権を持ち、完全には言えないまでも、大人として扱われるからです。ただ、もし心配なこと不安なことがあれば、いつでも担任までご連絡ください。

本日入学された生徒の皆さん全員が、本校の三年間で大きく成長し、社会で活躍できる人となって卒業していくことを祈念し、式辞といたします。

令和3年4月8日

兵庫県立西宮甲山高等学校長
早川 千也